

海洋観測データ等を用いた データの価値化・サービスの実現と 観測へのフィードバック等について

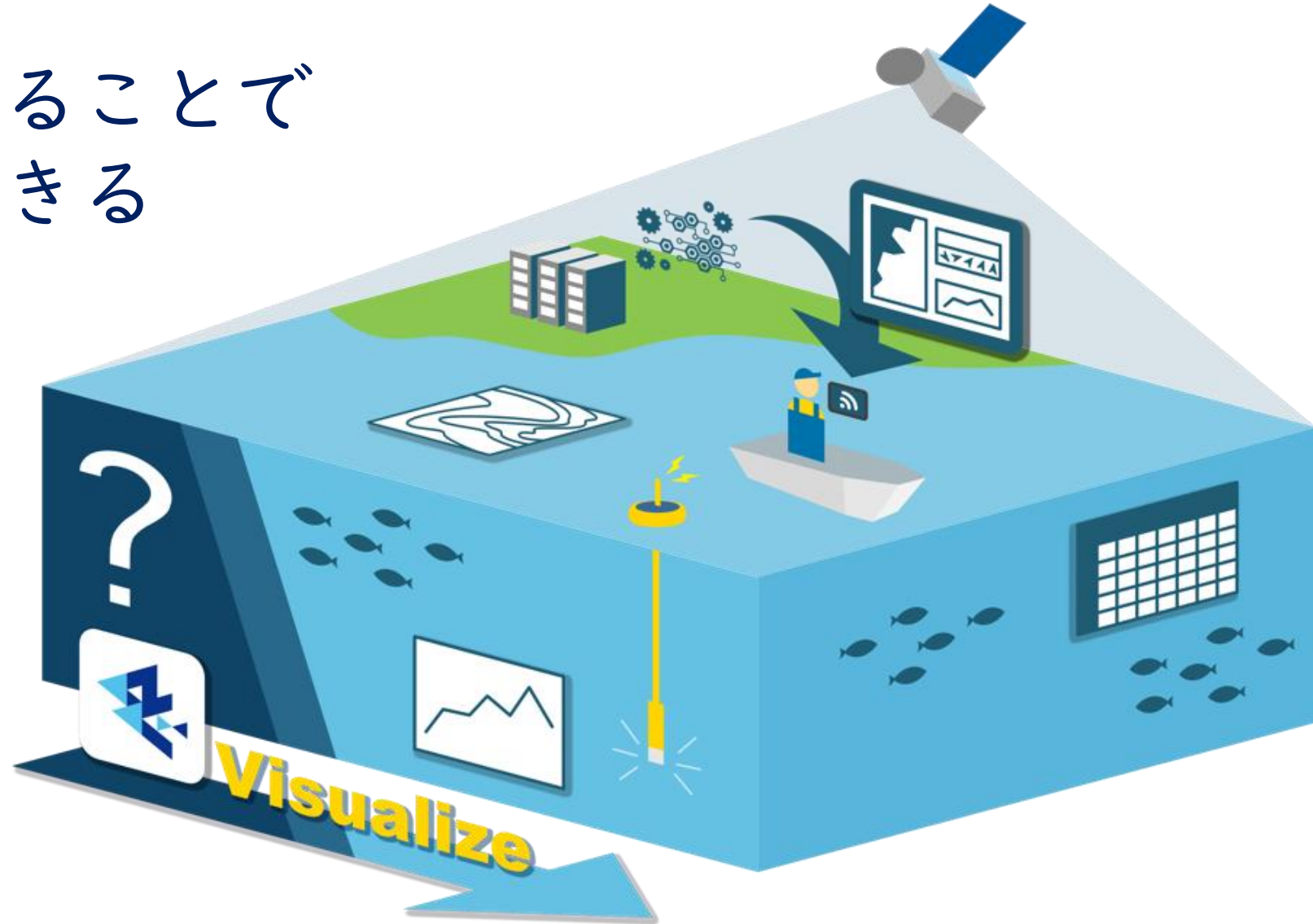


Ocean Eyes

株式会社オーシャンアイズ
発表者: 代表取締役 田中 裕介

1. オーシャンアイズの事業概要
2. 「データバリューチェーン」から見たOEの事業
3. データバリューチェーン構築にあたっての課題感
4. まとめ

「透明な海」をつくることで
人が主体的に活動できる
海にする



オーシャンアイズは

京都大学
JAMSTEC

海洋データ解析技術で社会貢献を目指すディープテック企業です

コア技術

海洋シミュレーション

海の
天気予報

画像解析の海洋データへの応用

Board Members

取締役

蒲地 政文

海洋モデル，データ同化
元 気象研究所 研究総務官



取締役 CTO

飯山 将晃

パターン認識，AI
滋賀大学 データサイエンス学部 教授



監査役

石川 洋一

海洋モデル，データ同化，気候変動適応
JAMSTEC 付加価値情報創生部門
地球情報基盤センター長



代表取締役

田中 裕介

海洋モデル，データ同化

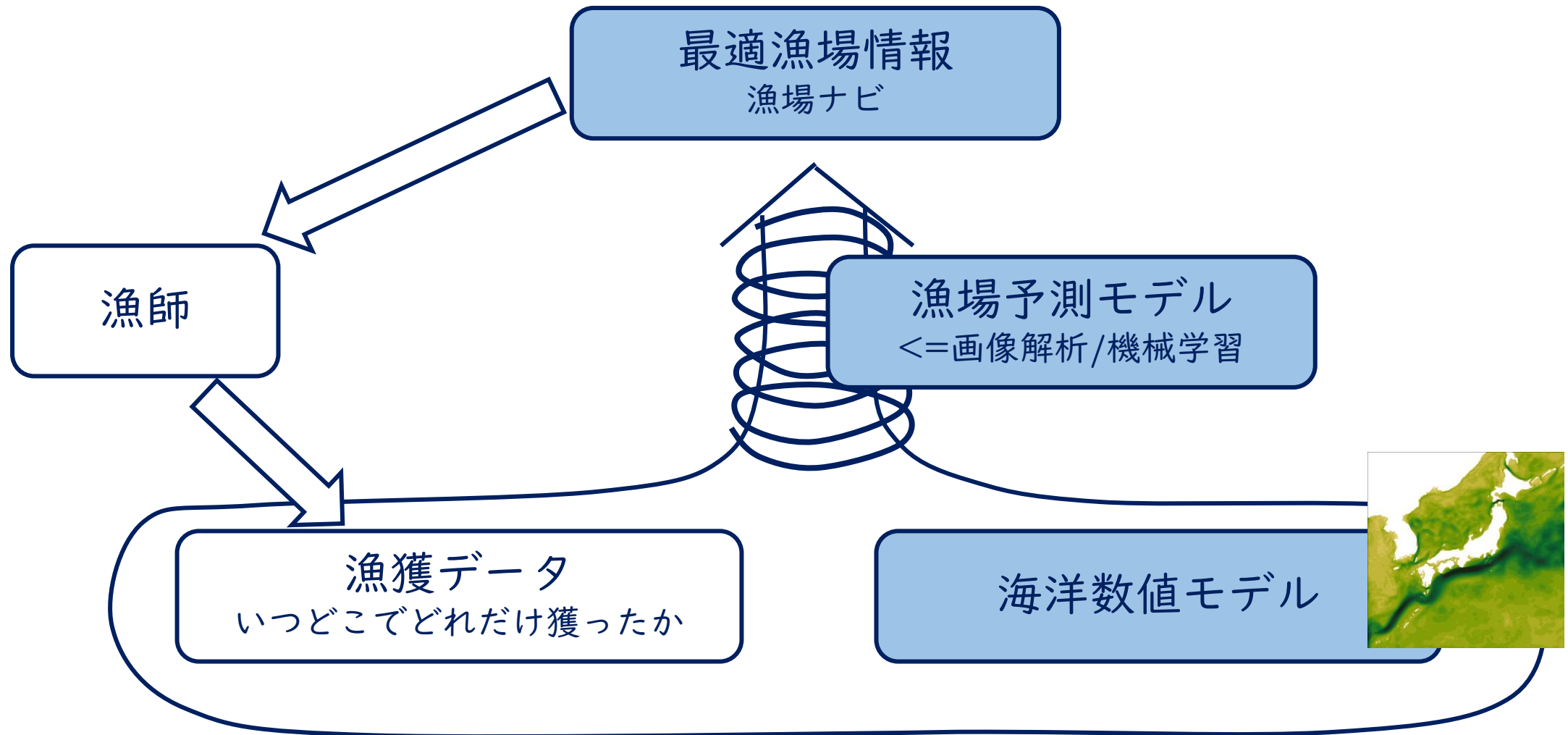


取締役

笠原 秀一

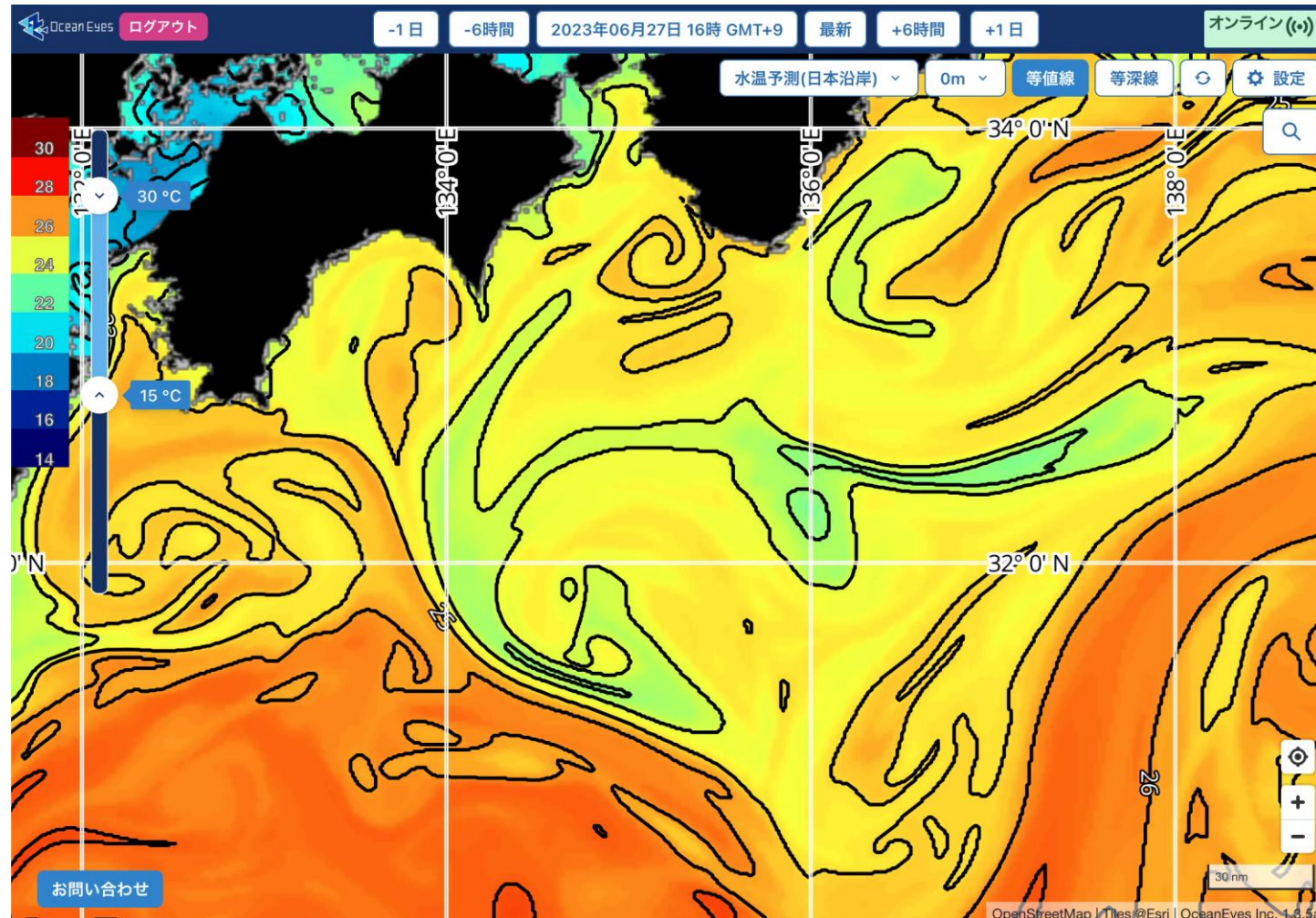
観光情報学，パターン認識
大阪成蹊大学 データサイエンス学部 教授





魚群の場所を推定する: 漁場ナビ

プロダクト: 魚群がいる可能性が高い海域を提供する **漁場ナビ**

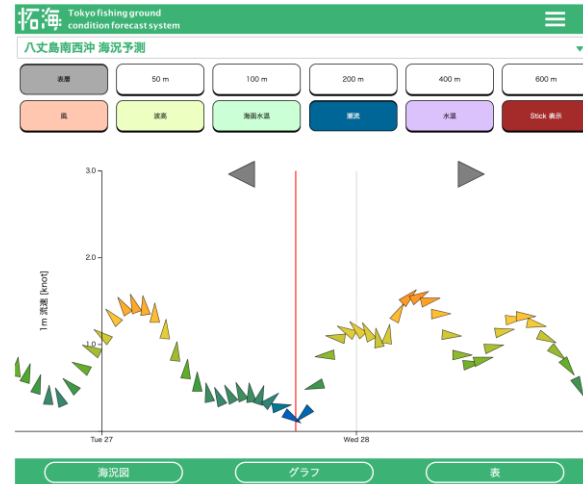
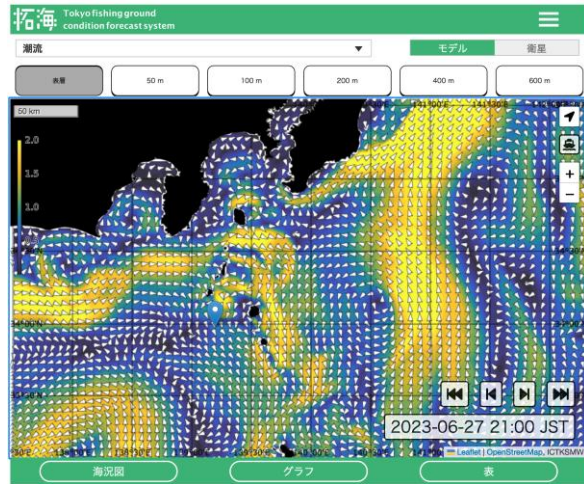


漁場の狙いを定めるのに役立つ情報を Web アプリで提供する

- 水温分布
- 流れの分布
- クロロフィル分布
- 海面高度分布

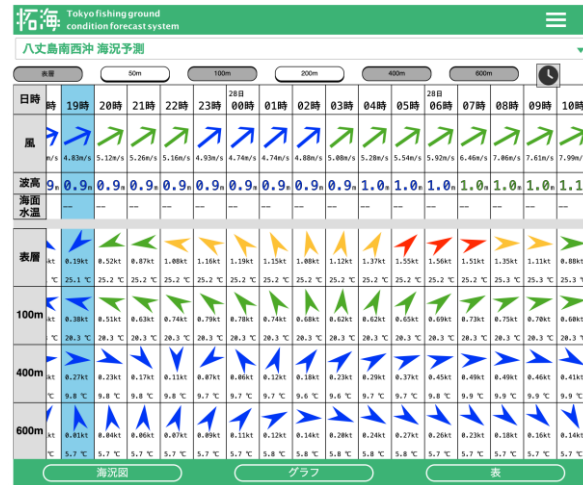
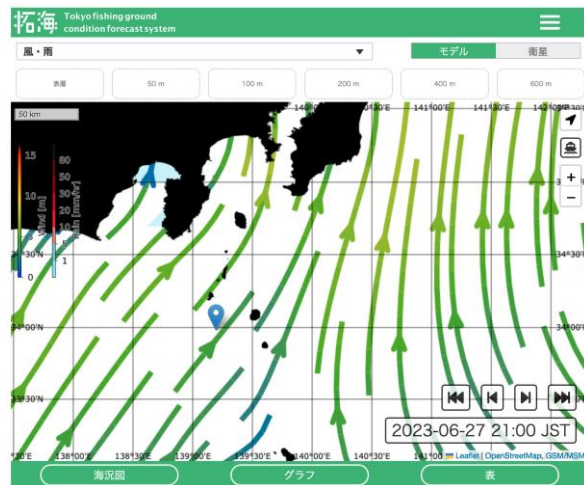
漁場の情報を提供するプロダクト: SEAoME

ユーザーニーズに応じた情報を提供するカスタマイズサービス



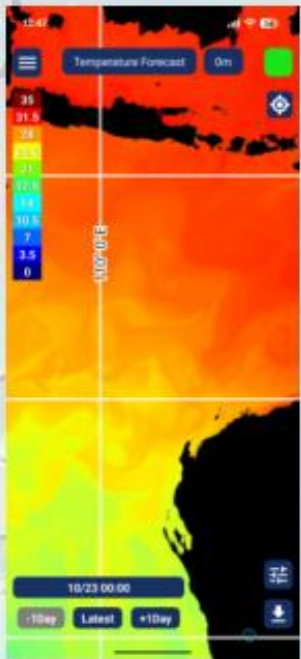
顧客の個別ニーズに応じた情報を最適な可視化で提供する

- 詳細な海洋シミュレーションモデルの構築
 - 顧客データとの統合解析
 - 顧客ニーズに応じた表示
 - 観測データとの統合表示
- Etc...

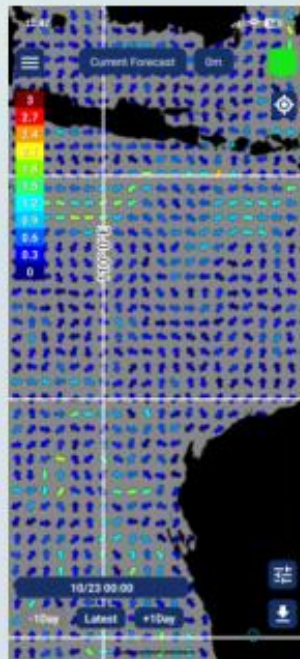


海況情報を簡単に使えるアプリ: OEView

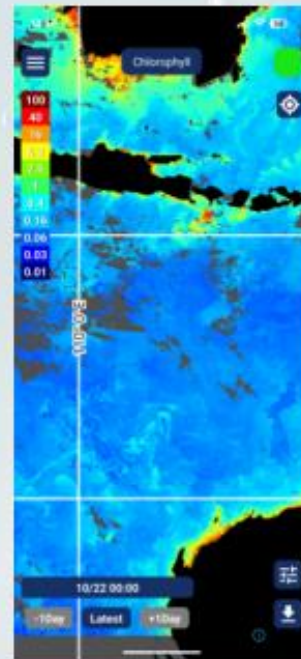
Temperature
Forecast



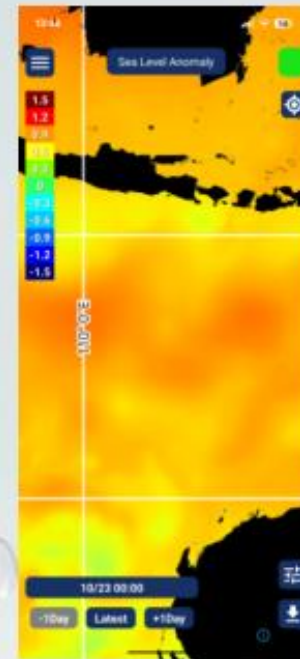
Current
Forecast



Chlorophyll



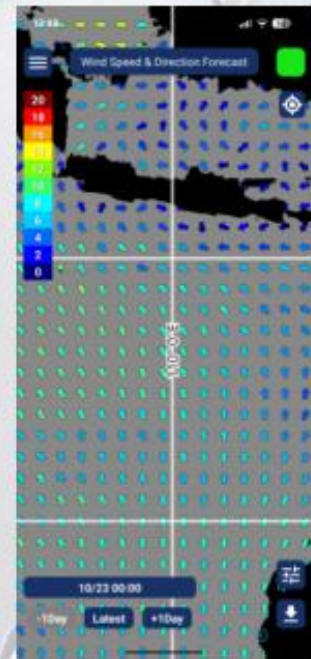
Sea Level
Anomaly



Wave Height
Forecast

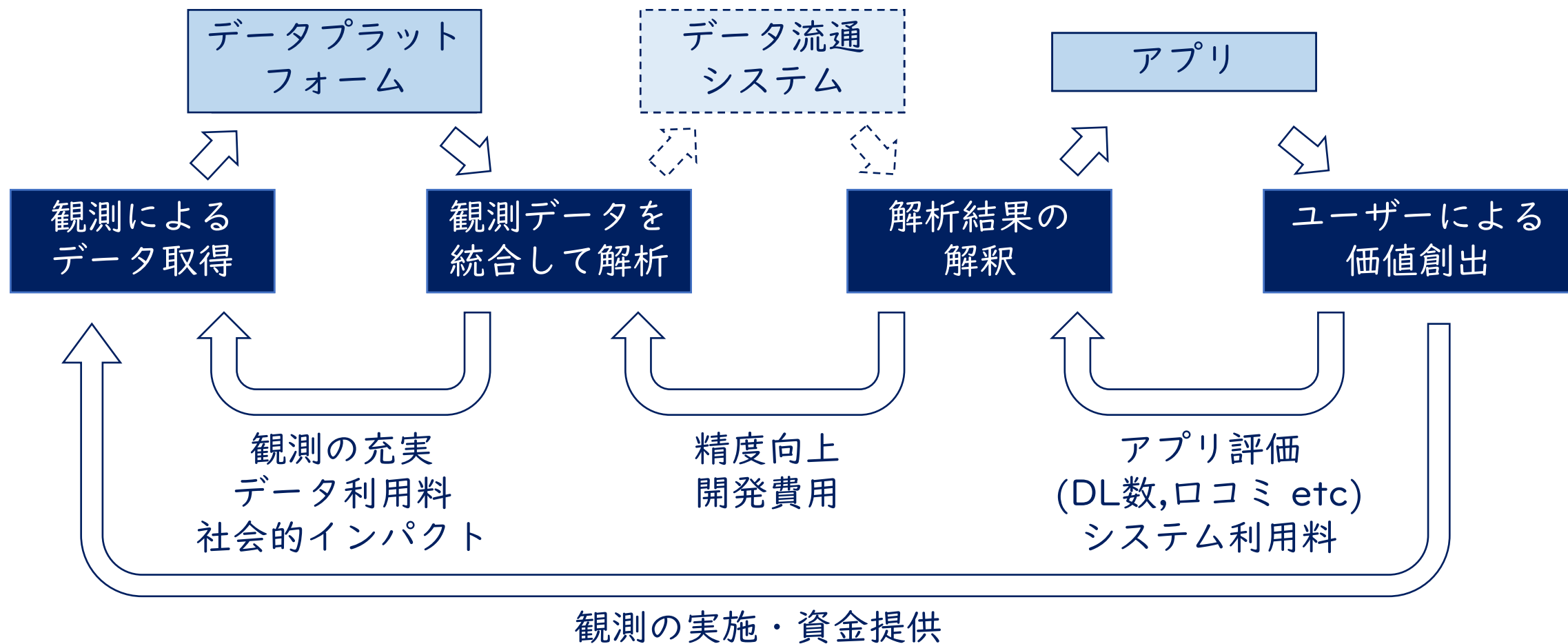


Wind Speed &
Direction Forecast



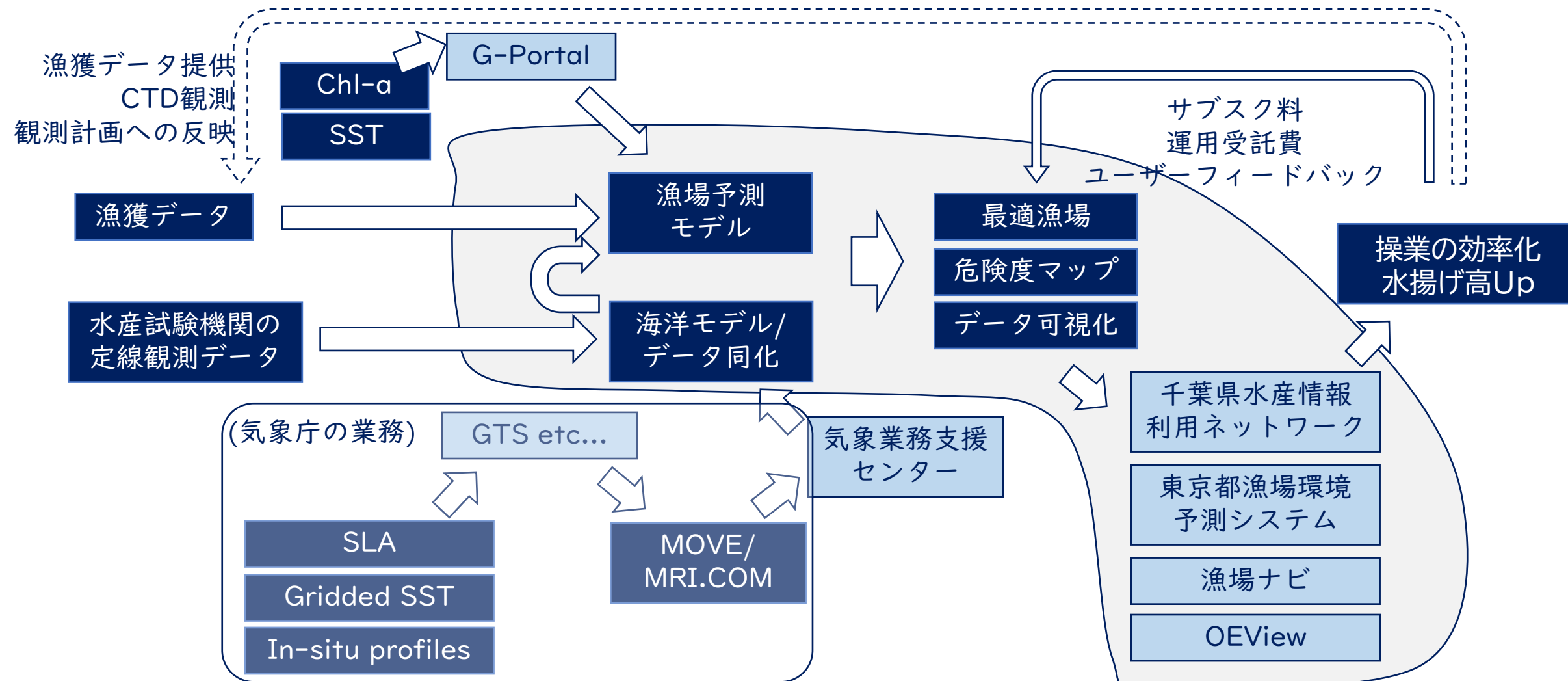
「データバリューチェーン」

民間利用でのデータバリューチェーン



「データバリューチェーン」

オーシャンアイズのデータバリューチェーン（漁場予測）



所感: 観測へのフィードバック

フィードバックするための枠組みの構築が必要（特に公的プロジェクト）

- ユーザー → サービスベンダー

アプリを通したフィードバック: 言語化されたフィードバックは得にくい

KPIとしてはダウンロード数, 利用頻度など

SEAoMEなど特定ユーザー向け: サービス運用者によるフィードバックの取得が可能
水産試験場から漁業者へのヒアリング etc

- サービスベンダー → 観測実施者

そもそもフィードバックする手段がない

(協業の一例) JAXA SAMRAI (超広帯域電波デジタル干渉計) 搭載衛星プロジェクト

取得データのユーザー候補としてセンサ仕様策定時から参画

どのようなフィードバックがよいか?

ユースケース数

インパクト (アウトカムを数値化=金額化したもの)

研究×事業化の協業提案

観測実施者 (アカデミアも多い) とベンダーをつなぐ役割を担える人材育成も必要?

日本国内の海洋に関するデータプラットフォームが圧倒的に弱い

海洋に関するデータプラットフォーム

現業の現場観測データ: JODC (海しる)

データ収集の網羅性が乏しい; リアルタイムデータが (ほぼ) ない

→ 現状は GTSP (NOAA) に依存

地方自治体取得データの収集・アーカイブをしてほしい

→ 現状は各自治体から直接取得

衛星データ: G-Portal

(準) リアルタイムデータ配信; 自動収集対応もして使いやすい

研究データ

研究計画とともに使えるデータがまとまって探せるような仕組みがあってもよい?

オープンデータ化を進められる

論文の元データのリポジトリとしても使えるものがあればいいのかも?

「地球観測」とその重要性に対する認知が致命的に低い

「海洋」での経済活動そのものの (VCを含む) 一般での認知が低い
シンガポール・インドネシア・フィリピンなどのほうがよい反応が返ってくる
ヨーロッパは環境・生態系保全の観点で注目度が高い
(アメリカはビジネスという観点ではあまり注目されていない?)
国内ではUAV, 水中ドローンなどロボティクス系は比較的注目されている

海洋観測に関する課題感などはほとんど認知されていない
費用, 制約, ...

民間 (商業ベース) での利活用促進にとっては認知度向上が重要
貴重な観測データをうまく活用できる技術はビジネス上の強みになりうる
取得しにくいデータを得られる/持っていること自体が市場での優位性につながる
データの価値が真っ当に評価されることはバリューチェーンの構築に重要

- オーシャンアイズの事業を「今後10年の我が国の地球観測の実施方針」に記載された「データバリューチェーン」の考え方に沿って捉えなおした。
- バリューチェーンの中での「フィードバック」方向の矢印をうまく働かせるために、サービスベンダーも含めた取り組みが重要になってくるだろうと考えられる。
- 海洋観測データに関してはデータを流通させる仕組みの拡充も必要。
- 「地球観測」そのものの重要性の認知度向上が、データ利活用の促進、ひいては市場の拡大に不可欠。



Mail: info@oceaneyes.co.jp
Web page: <https://oceaneyes.co.jp/>
LinkedIn: <https://www.linkedin.com/company/oceaneyes/>

OEView

With cutting-edge technology, you can view unique ocean condition forecasts and satellite sea surface temperature data anytime, anywhere!

► For iPhone users



► For Android users

